

市民

談話室



旅 たかが「おかみ」
されど「おかみ」
青木きよ子さん（大通一丁目六十二歳主婦）

「いらっしやいませ」
畳に和服姿のおかみさん。左
右にずらり居並ぶ番頭、仲居、
下足番の最敬礼の迎えに圧倒
されました。古き良き時代は、
かくもありなんと息をのむ思い
の私。おかみの接客姿勢は看板
に偽りなしでした。
各部屋ごとにあいさつ回り、
宴会場の口上。また、お客と
いっしょの陽気な炭焼節の踊り、
にこやかな気品ある控えめな態

度は、女が女に一目ぼれ！白根
市の団体千人余、異口同音に、
「すばらしい！」の声ささや
かれました。
おみやげコーナーには、おかみ
のアイディアの品々。幸せを入れ
る延喜袋、幸せを結ぶ延喜紐、
お手玉、エプロンなどに「私が
幼かったころ、小さな紙風船を
ふくらませると、私の胸も優し

くふくらんだものでした。」の
メッセージ。さすがにおかみの
懐かしさの思いが込められてい
ます。
グループごとに玄関でおかみ
と記念写真。離れがたしの別れ
の爆竹に送られ、いい日旅立ち
の感無量。
宿の設備もさることながら、
すばらしい自然、濃い緑に水の
青さ、優しいおかみさん。身も
心もリフレッシュ、舌を喜ばせ、
心を満たした一泊二日の旅でし
た。



芸術の秋
小田 哲さん（東町一・六十六歳・無職）

今年も十一月一日から蒼穹会
展が中央公民館で開かれます。
この会は市内の美術愛好者の絵
画グループで、昭和二十四年に
創立、現在会員は十七人です。
会の名称は、青い大空を無限
に羽ばたき飛翔する願いがこめ
られています。来年は四十周年
を迎えますが、これまでは若
瀬富士雄先生、笹岡一先生を
講師に作品批評会、年一、二回
の展覧会、写生会などを催し、
各自の表現力を高める努力をし
てきました。特に、第九回展

には出品者九人が全員入選した
思い出もあります。
今は、会員それぞれが院展、
二科、行動、光風、清興展など
中央展に所属し、大いに活躍し
ています。四十年の長い月日に
は、会を去る人、また入る人、
今では懐しく感慨ひとしおです。
「共に描きて、共に生き、共
に語りて芸術の。」富田耕作氏
が作曲された蒼穹会歌の一節
のように、今後も相研磨し、個
性豊かな作品の創作に努力を重
ねていきたいと思えます。



スポーツ
小杉健作さん（新町乙・四十七歳・左官業）

私は小さいころから、駆けつ
こが大好きでした。
中学では当然のことながら、
伝統ある新飯田中学校陸上競技
部に入部。仲間とともに、数多
くの優勝を果たしてきました。
三年生のとき陸上部長を務め、
市内中学選手権大会を迎えまし
た。百斤、二百斤は優勝候補で
あったにもかかわらず、百斤は
三位と不意な成績で終わり、
せつなく苦しい思いをしました。
スポーツには技と気力が必要で
す。
二百斤の決勝では、気分転換
を図り、スタートラインにつき
ました。部長としての面目にか

けても負けられませんでした。絶対に
勝つ。号砲一発スタートダッシ
ュ。第二コーナーをトップで通
過、あとはゴールに向かって一
直線。テープを切る。記録は大
会タイ記録でした。
新記録を逃し、うれしさも半
減。勝利の難しさ、記録の更
新の難しさを初めて思い知らさ
れました。
それ以来ずっと陸上競技を愛
し、今でも時にせがれの大会を
見に出掛けます。あの少年時代
の思い出多い興奮が、せがれの
姿と重なってよみがえり、そし
て、これからもまた、楽しみの
一つとして燃え続けるでしょう。



手話を習って
人のために何かを
関根玲子さん（藤瀬一丁目・小学校六年）

私は今、青年教育センターで
手話を習っています。
手話との初めての出会いは、
加茂山の亀のいる池のそばでし
た。赤ちゃんを連れて夫婦らし
い人たちが背中合わせに座って、
池の亀を見ていました。ふと気
がつくと、赤ちゃんの「アアア
ブ」という声は聞こえるのに、
二人が一言も話さないのです。
振り返ると、二人は手や指を、
一生懸命動かしていました。何
だか知らないけど、胸がキュー
ンとして、じっと見てしまいま
した。
私には、耳が聞こえなかった
り、話せなかったりするなんて、

想像できないことでした。
ちょうどそのとき、学校のク
ラブで手話を教えてもらえるこ
とになりました。
その後手話サークルつばさに入
れてもらいました。
全員大人の人でしたが、手話
を習いたい一心に、思い切って
飛び込んでみました。会長さん、
飛谷さん、堀口さん、長沢先生、
ほかおおいの人たちから、良
くしていただき、とても楽しく
やっています。手話は難しいで
すが、一つ覚えるたびに、早く
その次を習いたいと思えます。
将来、人のためになる仕事に
就きたいです。そのためにはい



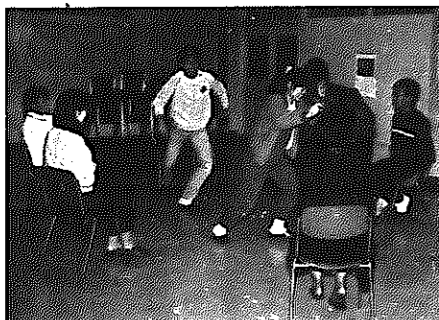
農業の前途を思う
岩倉 弘さん（下鷲ノ木一七十七歳・農業）

私が初めて自動三輪の中古を白
井の片野さんから心配してもらっ
たのが、昭和二十四年でした。そ
のころは車が少ない時代で、村に
は免許を持った人があまりいませ
んでした。時たま、シボレーやフ
ォードを見るのがありました。
何しろ万代橋の上でUターンでき
たくらいですから、女の運転手な
ど来ると、今のジャンボ機のバイ
ロットより珍しかったものです。
終戦から今日までの間、自動
車産業は米国デトロイトの本家

をほかに抜いて、我が国の経
済を支えるほどになりました。
今後ますます発展すること
でしょう。しかし、そのために、
我々米作農家が日陰になってし
まったようです。米価を下げる
のは世界経済の面からしかたな
いとしても、農業を窮地に陥れ
て、活路は勝手に見つけられよ
い、死ぬことはないだろう的な
農政に疑問がいつぱいあります。
それでも栄枯盛衰、輪廻転生
というべきでしょうか。

グループ紹介 ②

「ゆにれっく」



創設は48年7月。名称は、ユニ
ークなレクリエーションからとっ
て「ゆにれっく」。創設当時の会
員は16人だったそうです。
それから15年。この間には、10
周年記念誌「キャンドル」を発刊
したり、58年10月には、全国レク
リエーション大会で優良団体として
表彰も受けました。また、巣立っ
たメンバーは150人を超え、OB・
OGの中には市レクリエーション
協会でも活躍している人もいます。
現在の会員は28人。定例会は毎
週月曜日に青年教育センターで行
っています。創設当時の目的は今も変わら
ず、小柳和彦会長は「レクリエーションを
通じだれでも気軽に楽しめるアットホーム
なサークルです。新しいレクゲームなども
開発し、レク指導をしています」と話しま
す。合宿、スキー、クリスマスパーティー
など会員の親ぶくも欠かしません。サークル
についての問い合わせは小柳会長（☎362
—5408）または青年教育センターへどうぞ。

会員の声

田中孝子さん
（庄瀬3・21歳）



入会したのは3月です。青年スクールで
茶道をやっていたのですが、青年団体の行
事を手伝っているうちに、いつのまにか入
会していました。皆さん楽しいばかりで、
自分もしっかり楽しんでます。今のうち
に多くの人と知り合い、知識や交流を深
め、自分を高めていきたいと思っています。

このコーナーに登場するグループを募集
しています。自薦、他薦を問いません。問
い合わせは企画調整課広報広聴係（☎3
33）へどうぞ。

市民文芸

川柳

河口まで澄んでは行けぬ溪谷の音
高橋祐四雄
針ほどを棒に育てる無責任
田中 成子
病む友へ一輪さしの愛を活け
田村 恒夫
食通の舌へ包丁研ぎ直す
長井 徳市
名香を聞き分け伽藍に居着く鳩
中村 尚治
故郷の水は流浪の果てに恋い
西条 ムラ
折角の夢の続きがもう見れぬ
早川 英男
温もりが伝わる人の酒に酔う
山岡 フミ
方向音痴たよる看板見当たらず
吉川 彰
温泉の下駄に誘いの手が伸びる
米野 光雄
知らぬ間に菓作りしてた娘に負ける
今井 七郎

俳句

一瞬をひやりとさせた立ち眩み
織田 セツ
嫁が来てカタカナメニュー座を占め
後藤マサノ
母だから親馬鹿の夢忘れない
佐藤トミノ
見る事の出来ぬ未来に夢を馳せ
佐藤 ヨキ
俳句
軒に立つ行商の肩にも秋の風
玉木 長吉
水雨降る宵に散り行く四季桜
渡辺 勤
短歌
露を置き咲き初む菊に秋あかね
我近付くも翫ぶ気配なし
中村 京